

『振り返ってわかったこと』



小学生時代

- ・低学年はあまり覚えていない。(ほんとに！！)
- ・小4の頃に行ったサマースクール、ウィンタースクールが楽しかった。
- ・サマースクールでは、昔の疎開先の小学校との交流や海で泳いだのが楽しかった。
- ・グループで田んぼの生き物の観察や木工、笹団子作りをした。ウィンタースクールはスキー！1回しか行けなかった。
- ・児童館のイベントで新潟に行った。
- ・幼稚園の頃から水泳を習っていた。バタフライまで泳げる。次の級に上がるにはタイムを上げるしかない状態でやめた。
- ・4年で工作、5年ドッジボール、6年料理部。楽しかった。特にドッジボール！
- ・宿題を丁寧にやろうとしすぎて、時間がかかり、やりたくない気持ちになることが多かった。
- ・人生の中で一番か二番で本を読んでいた時期かも…。
- ・一番長く過ごしたから思い入れが強いかも。

中学校時代

- ・演劇部を理由に越境していた。よくやったと思う。
- ・家の近くの中学校は評判があまり良くなく…、同じ小学校の人も別の中学校に行くため、自分も越境した。
- ・ただ、演劇はあまり得意ではなかったかも。
- ・遅れて参加するときは活動に入りにくく、無断欠席した経験も…あれは良くなかったな。(反省)
- ・演劇部の先輩が全員優秀だった。

高校時代

- ・一般で受かりそうなところに選択肢を絞ったら今の学校になった。
- ・高1、入学後は緊張してた。高校通級は、1年の後半から始めた。通級では私が課題をやらないせいで、基本的にはずっと課題をやっていた。そのためワークとかは全然できなかった。課題はなかなか手がつけられなかった。時間は時間を取らなかった。
- ・課題が終わらなくなったのは小学校から。高学年ごろから漢字ドリル・計算ドリルが出せなくなった。漢字ドリルは丁寧にやりすぎようとしすぎてだんだんめんどくさくなってきた。やるからには丁寧にやらなきゃと思った。単純に後回しだったかも。
- ・高校も、課題は他人に見せるものだから、丁寧にやらなきゃと思って、後回しにしていた。感想文とか、思いついたらにしようと思っていたら期限がきれていた…。
- ・入試の時で言うと、受かるか受からないかだけで選んだので、普通科でなくて総合学科だという認識があまりなかった。『宝の鍵が見つかる場所』というキャッチコピーがある学校で、授業が選択式だった。やりたいことが特になくて、普通科に行けばよかったなと思った。課題研究があることも認識してなかったのも、卒業はたしてできるのか不安視されていた。この学校を選んだ理由を何度も聞かれて困った。
- ・他の高校はよくわからないが、私でも卒業できた点が、この学校の良かったところ。
- ・先生と話していたら、先生からなぜかいじめられているみたいな変な噂がたったりもあった。
- ・通級：課題を手伝ってもらってよかった。雑談もできた。ちょっとしたカードゲームをしたのも楽しかった。コミュニケーションアシスト講座に行ったりした。話ができて楽しかった。
- ・大学調べはめんどくさかった。最終的にもあんまり調べなかった。まだ決めてないの？と言われたが、決める最後の一手がわからなくて、結局近いとか、受かりそうで決めた。

ティーンズの後輩へ一言

ティーンズの感想：

ティーンズは楽しかった。話をしたりゲームしたりできてよかった。
面談の時間基本30分で、他の時間自習で、あんまり自習は進まなかった。スマホで遊んじゃっていたので。

後輩へ一言：

そんなにがんばらなくても大丈夫。

なるべく何かしてた方がいいと思う。

動画を1日見続けてたりとか、画像を検索し続けてりとかじゃなくて、何か1つこれをやった！と思える、少しでも1つ何かを進められる
とよいと思う。1日何もしなかったという日を減らせると思う。「あの日何もしなかった」という後悔を続けるよりも、「でも1分何かやった」
と思えると良い。受験勉強なら英単語とか。毎日1単語～5単語だけでもいい。大量の単語を1日で覚えるよりも楽だから。高1から始
められるとなおよい。

M.Kさん

小学校：通常級 ⇒ 中学校：通常級 ⇒ 高校：単位制高校 ⇒ 大学進学

利用時期：高2～高3

参加プログラム：週1日の平日セッション

ティーンズで行っていたこと：提出物の管理、受験のサポート、日々の気持ちの聞き取り

長所：自己分析ができる、自分なりのやり方を模索できる、丁寧に物事に取り組む姿勢

過去の自分に一言：『走れば間に合う！』『勉強での不安は勉強することでしか払拭できない』『1日に何か一つでもする』

